

新潟県 看護協会だより

第136号
平成30年8月20日発行



平成30年度 看護の日事業
式典・市民公開フォーラム

平成30年度 看護の日事業



平成30年度 公益社団法人新潟県看護協会通常総会

CONTENTS

会長・副会長あいさつ	2
平成30年度 新潟県看護協会通常総会	3
職能トピックス	4~5
地域包括ケア	6~7
平成30年度「看護の日」事業	8
平成30年度 看護協会の紹介	9
ナースセンターからのお知らせ	10~11
お知らせコーナー	12



第6回 カンゴサウルス賞

会長あいさつ



公益社団法人新潟県看護協会
会長 奥村 麗子

この度の西日本豪雨で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りします。また、募金にご協力いただきました皆さんに感謝申し上げます。

会員の皆さんには、普段よりお忙しい業務の中、協会活動に対し多大なるご理解ご協力を賜りまして、ありがとうございます。6月20日に開催いたしました平成30年度新潟県看護協会通常総会においては、定款の一部改正について審議を含む提出議案すべてご承認をいただきました。今回の改正は、本会の

定款で法人法と異なっている役員の選任の部分を改めると共に、必要な規定を追加するなど、本会の運営がより円滑に行われるようすることを目的にしたものです。平成30年度の重点目標は、新潟県看護協会の使命を基に看護職としての役割を積極的に担う立場から文言は、少し変えたところがありますが、昨年度に引き続き4点と致しました。

また、少子高齢化を見据え、地域包括ケアシステムの構築に向けての動きが活発になってきています。新潟県におきましても今年度より第7次新潟県地域医療計画による取り組みが開始され、地域単位で進められる活動が重要となっています。看護専門職団体として役割が果たせるよう連携し、参画していきたいと考えております。

役員はじめ関係者一同、更なる協会活動推進に向け、新たな体制で今年度事業をスタートしたところでございます。皆さまのご意見ご協力をいただきながら、さらに前進していきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

*今年度の新規事業

訪問看護教育体制整備事業を開始いたしました。教育体制の充実と訪問看護従事者の確保・定着を促進するため、訪問看護従事者（新任者等）に対して現地での育成支援等を行います。内容は新任者育成支援およびコンサルテーションなどです。訪問看護に携わる多くの方々からご活用いただきたいと思います。

副会長あいさつ



公益社団法人新潟県看護協会
副会長 定方 美恵子

副会長をお引き受けし、2期目2年目に入りました。看護基礎教育教員32年、協会の仕事を始め、今、思うことは、社会が看護に大きな期待を寄せていることです。看護の質を更に向上させ、生きるを、ともに、つくりたい。



公益社団法人新潟県看護協会
副会長 五十嵐 直子

「生きるを、ともに、つくる」地域医療構想が進む中、地域包括ケアにおける看護の提供体制の推進が重要です。副会長2年目、社会の期待に応え、看護職の皆様の輝きを支援する看護協会を目指します。よろしくお願いします。

平成30年度 新潟県看護協会通常総会

- 日時 平成30年6月20日(水) 9:30～12:00
- 会場 新潟グランドホテル
- 参加人数 424人
- 委任状 12,302人



平成30年度重点目標

1. 地域包括ケアにおける看護提供体制の推進
2. 変化する社会ニーズに対応した質の高い看護を提供できる人材育成
3. 看護職の働き方改革の推進
4. 支部活動の推進による組織強化

職能集会

保健師職能集会

メインテーマ 『輝く自分を取り戻す～ケアする人の心と体のケア～』

演題 『輝く自分を取り戻す～ケアする人の心と体のケア～』

講師 水科 江利子 一般社団法人セルフアドヴァンス協会代表理事



助産師職能集会

メインテーマ 『未来につなぐ助産ケア』

演題 『産後の女性のメンタルヘルスケア

～バースレビューを中心に～』

講師 常盤 洋子 群馬大学医学部保健学科教授



看護師職能Ⅰ・Ⅱ合同集会

メインテーマ 『看護職能Ⅰ・Ⅱ、看護師としての生き方を考えよう』

～地域住民の健康・暮らしを支えるために～

演題 『看護師という生き方』

～看護師は生きてきたように看護する～

講師 宮子 あづさ 看護師 著述業



職能トピックス

保健師

平成30年度 保健師職能活動報告

保健師職能委員長 相馬 幸恵



保健師職能では、平成30年度活動方針として、(1) 地域包括ケアシステムの構築に向け、保健師一人ひとりが、それぞれの立場で取組を推進する。(2) どの職域に所属していても、保健師の専門性や役割を発揮した保健活動を行うことができる。(3) 保健師の連携強化とネットワーク構築を図り、いきいきと元気に活動する。以上3点を掲げ、支部保健師職能代表者会議や保健師情報交換会、保健師活動実践集の発行等、様々な活動を実施することとしています。

6月に実施した職能集会では、「輝く自分を取り戻す～ケアする人の心と体のケア～」と題し、(一社)セルフアドヴァンス協会の水科江利子氏をお迎えしました。心と体のセルフメンテナンスについて楽しく体験を通して学び、ケアする私たち自身が元気でいることの大切さを再認識することができました。参加者31人でしたが、全員非常に充実した時間を過ごすことができました。

講演では、筋膜ケアの実践をはじめ、水科先生の様々な活動や御経験等をお聞きかせいただき、講演の終盤には、実際心がほぐれ自然に涙が出た参加者も多く、「心と体がつながっていることが実感できた」「心のエネルギーを補充でき軽くなった」などの感想が出されました。また、その学びから、今後高齢者の健康教室や様々な場面での実践に活かすことができると期待できました。

あらゆる世代の地域包括ケアシステムの推進に向けては、多職種連携が進んでいる一方、地域の健康課題も多様かつ複雑化が進む中、生まれてから最期まで切れ目ない支援が求められており、看護職間及び保健師間の連携強化による活動がさらに重要であると思います。保健師の活動も年々忙しくなってきていますが、支部とのネットワークを強化しながら、様々な分野で働く保健師の現状やニーズを共有し、保健師自身が元気に生き生きと活動していけるよう、活動していきたいと思います。

助産師

平成30年度 助産師職能活動報告

助産師職能委員長 小林 正子

1年間を通じてのテーマは、昨年に引き続き「未来につなぐ助産ケア」として課題に取り組んでいきます。近年、母子を取り巻く背景の変化により、身体的・精神的・社会的にハイリスクな妊産婦が増加し続けています。このような時代だからこそ、すべての妊産婦に助産師のケアが必要です。そして、社会は私達助産師に倫理的感應力、マタニティーケア能力、専門的自律能力、ウイメンズケア能力を兼ね備えた、より質の高いケアを求めています。

今年度の助産師職能集会は、「産後の女性のメンタルヘルスケア～バースレビューを中心に～」と題して、群馬大学医学部保健学科教授 常盤洋子先生にご講演いただきました。

参加者は51人とメンタルヘルスへの関心の高さが窺えました。講演では、出産体験の臨床的意義として母親意識が発達する危機的移行期等があること、母親が出産体験を語り、助産師により体験を意味づけされる支援によってメンタルヘルスが維持される等、バースレビューの必要性、対象を理解する基本姿勢と支援を多角的に学ぶことができました。県内ではバースレビューを実施する施設が多いですが、各施設で課題があります。参加者からは、バースレビューの重要性を再認識した、スタッフ間で共有し“助産師の技”を定着させたい、プロ意識をもって母親と関わりたい、今後のケアに取り入れたいという意見が多く好評を得ました。

職能委員会では、助産師のニーズを把握しながら、現場で直ぐにでも取り入れられる内容の講演や研修会を実施できるよう活動していきたいと思います。

研修会のお知らせ

テーマ：「これから時代に求められる助産師の役割」

日 時：平成30年12月1日（土）13:00～16:00

場 所：コープシティ花園ガレッソ

是非ご参加ください。



看護師Ⅰ

平成30年度 看護師職能Ⅰ活動報告

看護師職能Ⅰ委員長 田中 京子

看護師職能Ⅰ・Ⅱ合同集会は6月20日（水）に宮子あずささんを迎えて「看護師という生き方」について講演をしていただき、参加者は353名でした。宮子さんの看護師になられたきっかけや経験に基づく看護師としての考え方、感じ方等の変遷などを分かりやすくお話しくださいました。参加者の意見の中に「考える、生き方を見つめ直す」などが多く、実体験の看護の現場を想起させられる内容でした。看護師として働き続けていけるため“道しるべ”となったのではないかと思います。また、活動報告の際に昨年から委員会で取り組んでいた「病院における看護記録の実態調査」の結果について報告させて頂きました。看護記録が時間外勤務の要因になっていることが明らかとなり、各病院で様々な工夫や取り組みをされています。今後は11月17日（土）開催の意見交換の場で課題や問題解決の方法などを行いたいと考えております。また、今回の調査結果については11月30日の新潟県看護協会看護学会で示説発表をさせて頂きます。この機会に看護記録について一緒に考えていきましょう。



看護師Ⅱ

平成30年度 看護師職能Ⅱ活動報告

看護師職能Ⅱ委員長 村川 英伸

平成24年度に立ち上がった看護師職能委員会Ⅱの活動も今年で7年目を迎えました。当職能委員会Ⅱの立ち上げからご尽力された本間前委員長のあとを今年度より引き継ぎまして、さらに4名の委員が入れ替わりました。それぞれの委員の持っている情報ネットワークも今までと同様に広く、有効に情報収集し行動できるものと自負しております。

平成30年度の活動方針は、昨年度の目標を踏襲し「1. 支部職能委員との連携をはかり、看護師職能領域Ⅱの問題・課題の抽出を行う」「2. 看護職の質向上のための研修会・勉強会を実施する」「3. 看護師職能Ⅱ領域の看護協会入会者増加に向けた取り組み」の3点を目標としています。

地域包括ケアにおける看護提供体制の構築には、在宅・施設などの看護人材の確保・育成および質の向上は喫緊の課題となっており、当委員会としては、主に研修会の企画と支部職能委員との情報交換を継続して行っておりました。地域の医療と介護の連携を図る視点から、今年度は診療所の看護職を含めた組織化にも留意したいと思います。



先般6月20日に行われた看護師職能Ⅰ・Ⅱ合同集会も皆様のご協力により大盛況に開催でき、講師の宮子あずさ先生からは、臨床における意思決定の難しさや看護師として働く「つらさ」を伝えられながらも、「考える看護」を大切にして看護師を続けるすべを学びました。

また7月7日には職能Ⅱの今年度の研修会として「摂食嚥下」研修会を実施しました。介護職や栄養士の方々を含めた65名が参加され、小千谷市のくらたて歯科医院院長である鞍立常行先生からご講演いただきました。統計データや基本的な事項から具体的なケアや物品の使用についてなどお教えくださいました。午後のグループワークでも活発な意見交換ができたとの感想で、受講者の満足度の高い研修となりました。

これからも看護師職能Ⅱへのご協力、ご支援、ご意見等賜りますようお願い申し上げます。

地域包括ケア

地域と医療をつなぐ～在宅医療・介護連携の取り組みについて

新潟市中央区役所 健康福祉課 課長補佐（副参事） 清水 智子
(前所属：保健衛生部 地域医療推進課)

本市は2007年4月1日に政令指定都市としてスタートした。当時は人口80万人だったが2025年には79万人、2040年には72万人と減少し、反面高齢化率は2025年には31.3%、2040年には36.8%（※）に達する見込みであり今後も医療・介護需要は増加すると予測されている。

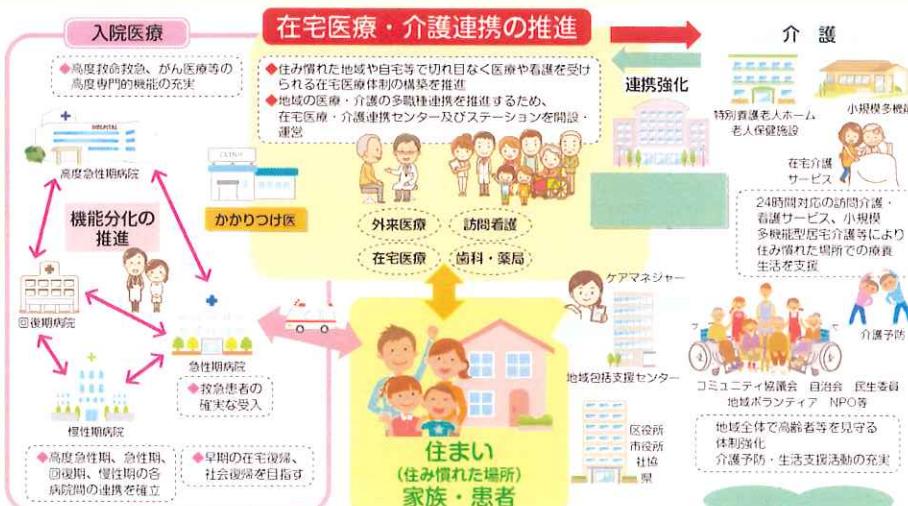


そのような状況を踏まえ市長は2014年を「地域包括ケアシステム元年」と打ち出し市民が人生の最期まで自分らしい暮らしを続けられるよう住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域づくりに乗り出した。その重点施策のひとつに「在宅医療・介護連携の推進」を掲げた。今回はその取り組みについて紹介する。

2013年に当時全国では珍しかった市独自に医療計画を策定し地域医療の骨幹である、救急医療、在宅医療、認知症を含む精神疾患分野について医師会や看護協会、訪問看護ステーション等の機能団体と地域の現状と課題の洗い出しを行い、市の目指す方向性を打ち出した。まず2014年から地域の医療・介護の多職種連携を推進するためにその拠点となる「在宅医療・介護連携センター及びステーション」の整備を開始する。地域の特性を捉えた取り組みを重視するために8行政区にステーションを設置したが、そのほとんどを地域の中核病院に業務を担ってもらい、そのコーディネートを担当するセンターは医師会に委託した。現在拠点では、地域の医療・介護関係者等からの在宅医療・介護サービスに関する相談を受けたり、多職種の顔の見える関係づくりの構築のために研修会を開催し、例えば様々な機関で働く看護職の連携を図るために「Can Canミーティング（看看連携）」と称して事例検討会等を開催したり、住民への普及啓発のため自治会や老人会などに地域の医療・介護関係者を講師として派遣し、在宅医療や介護保険サービスのかかり方等を説明しながら住民と医療・介護関係者が話し合う機会を持つ「おきがる座談会」等を開催している。

市民の生活の安心・安全を生む尺度には身近な地域の医療が充実しているかということは重要なファクターである。よって医療機関も地域包括ケアシステムの中では大切な生活資源であるとともに、高齢化が進む地域では「生活を支える医療」の重要な担い手である病院や施設、行政等様々な場で働く看護職への期待は大きくなっていると感じる。さらに昨今は共生社会を目指し母子や障がい者に対しても切れ目なく医療や看護を受けられる体制も求められている。行政で働く看護職（保健師）として今後も努力していくたいと考えている。

（※）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年3月推計）」



「第7期 新潟市地域包括ケア計画」より

地域包括ケアの具現化である山ノ下ねっと

山ノ下地域包括ケアネット 代表 阿部 行宏
阿部胃腸科内科医院 院長



「地域包括ケア」ってなに？と質問されてきちんと答えられる人は少ないと思います。患者家族を中心に医療介護だけでなく様々な方々との連携のもと地域を作っていく、これが地域包括ケアとされているようですが、ではどのように？どんな形で？と言われ実感できる場がなかなかありません。

しかし新潟市東区にはあります。それが山ノ下地域包括ケアネット(略称：山の下ねっと)です。地域における医療、介護事業者のみならず、行政、個人が108(平成30年6月現在)も集まり、年2回全体会という講演会+グループワークを主に朱鷺メッセにて行っています。毎回100名を超える参加者が熱く語り合い、お互いを感じ、信頼しあえる場を提供しています。それ以外にも事例研究クラブ、医療介護リレー研修会も開催しています。

我々は、ともに同じ夢を夢見て、現実を直視し、一步先の現実を考え、その一步先の世界とともに踏み出すために活動しておりますので、ご興味ある方はホームページをご参照いただきご参加いただければと思います。

地域包括ケアシステム構築の中で～地域包括支援センターの取組み

新潟市地域包括支援センターあじかた
管理者・社会福祉士・主任介護支援専門員 小山 弓子

保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の3職種で、権利擁護・介護予防・ネットワーク構築を意識し「住み慣れた地域で暮らし続けられる支援」をする総合相談窓口です。

「自宅では絶対また転ぶ」「独居で薬の管理ができない」「透析に通えない」「この状態で退院は困る」…本人は家に帰りたいのに叶わない、周囲の都合や心配が優先されてしまうケースに対し「何をクリアすれば帰れるか」一緒に考えます。認知症で外出すると帰れない・周囲とトラブルになってしまう方、入退院を繰り返す方、看取り段階で状態が刻々と変化する方…不具合を抱えた方が地域で暮らし続けられるよう、介護保険サービスでは賄いきれない部分を地域の様々な社会資源で補い、足りない資源は「ケア会議」等を活用しながら創り上げていく活動もします。

ケースで悩む介護支援専門員の支援、虐待対応や認知症サポーター養成講座など啓発活動や様々な研修会の企画も行っています。



平成30年度「看護の日」事業

テーマ 「看護の心をみんなの心に」

開催日 平成30年5月11日(金) 開催場所 新潟グランドホテル

式典 受賞された方 おめでとうございます

栄えある受賞、おめでとうございます

看護業務功労者新潟県知事表彰 児玉恵子様(佐渡市役所)
中静恵子様(前晴麗看護学校)
矢川春美様(前佐渡市役所)

優良看護職員新潟看護協会長表彰 228名



市民公開 フォーラム

地域で生きる絆をつむぐ医療の輪
～みんなで支える高齢社会をめざして～
生きる、ともに、つくる。



シンポジウム「地域包括ケアの時代、みんなで支え合い在宅支援をつなぐ看護実践」

以上のテーマでNPO法人このゆびと一まれ 惣万佳代子理事長より、貴重なお話を聞くことができました。

深澤つや様
日本看護協会
名誉会員に
決定しました



看護の質の向上と看護協会の充実、発展に寄与された深澤つや様が、平成30年度日本看護協会通常総会において、日本看護協会名誉会員に決定しました。心からお祝い申し上げます。

栄えある受賞、おめでとうございます

日本看護協会名誉会員

深澤つや様

叙勲 瑞宝単光章

間雅子様(知命堂病院)
荒瀬原明子様(前新潟大学医歯学総合病院)

日本看護協会会长表彰

佐藤たづ子様(前新潟県看護協会長)
定方美恵子様(新潟大学医学部保健学科)
佐々木美奈子様(新潟県立精神医療センター)
鈴木美智子様(立川総合病院)

第6回「看護職のWLB推進 カンゴサウルス賞」授賞式

主催 公益社団法人 日本看護協会

協賛 東洋羽毛工業株式会社



カンゴサウルス賞

平成29年度のカンゴサウルス賞を3施設が受賞されました。

- ・佐渡市 佐渡市立両津病院
- ・医療法人新潟臨港保健会 新潟臨港病院
- ・社団法人恩賜財団済生会支部新潟県済生会
新潟県済生会新潟第二病院

カンゴサウルス賞とは、看護協会が主催する看護職のWLB推進ワークショップに3年間取り組み、看護職の働き続けられる環境作りに励んだ施設に贈られるものです。

「カンゴサウルス」は、『繁栄』と『改革』のシンボルです。今後も継続してください。

今年度で、看護協会が主催する看護職のWLBは終了となります。参加・協力頂きました皆様に感謝いたします。

今後は、新潟県医師会と共に医療勤務改善支援センターの「県内の医療職のWLB推進事業」に看護協会も協働で2施設取り組みをいたします。

平成30年度 看護協会の紹介

役員



左から、中山常務理事、斎藤常務理事
太田専務理事、星野常務理事

斎藤常務理事が新しく就任しました。
新しい体制で、会員の皆様と共に、いきいきと活動
していきたいと思います。よろしくお願いします。

総務課



左から、渡辺、立川、三浦事務局長、安達、高橋

4月から新しく三浦事務局長が就任し、総務課では
局長を含めて5名の職員で業務を行っています。

入会案内や手続きに関する事、支部や委員会の活
動等、会員の皆様にさまざまな情報を届けできるよ
うに、取組んでいきたいと思っています。

教育研修課



後列左から、白井、中川、櫻、石田
前列左から、山田、岡田課長、広井

主に認定看護管理者教育課程ファーストレベル・セ
カンドレベル研修、緩和ケア認定看護師教育課程と臨
地実習指導者養成講習会などの企画・運営を行ってい
ます。

私達は、会員の皆様がキャリアアップを図り、実践
の場で活かせるよう取組んでいます。

訪問看護推進課



左から、小林、松井課長、伊多

H30年度より、訪問看護師育成サポート研修を開始
いたしました。

訪問看護認定看護師の松井が、あなたの施設へ直接
出向き支援します。

また、地域包括ケアシステムを推進するため、多
職種の参加ができる訪問看護師従事者研修会「実践編」
を開催しています。

ナースセンター課

皆様の周りに、お仕事探しをしている看護職の方はいませんか。

お近くの新潟県ナースセンター、
上越支所、柏崎相談窓口、南魚沼相
談窓口をご利用ください。看護職の
相談員が就業相談に応じています。
お気軽に来所・ご連絡ください。

新潟県ナースセンター 本所



後列左から、倉島、本間、照田課長
前列左から、小林、田中

上越支所



左から
長谷川、渡辺

柏崎 相談窓口



坂井

南魚沼 相談窓口



高野

新潟県ナースセンター事業報告

◆お知らせ◆

新潟県ナースセンター上越相談窓口が支所になりました

上越相談窓口が支所となり、新潟市にある本所と同様に求人・求職のご登録がしやすくなり、さらにきめ細やかな対応が可能となりました。

上越支所の他、南魚沼市、柏崎市の相談窓口でも求人・求職のご相談、進学相談等受け付けています。ぜひお気軽にお問合せください。



上越支所相談員
(左から) 長谷川、渡辺

上越支所

開設日：毎週 火・木
10:00～15:00
TEL：070-2175-6014
場 所：上越市市民プラザ内

南魚沼相談窓口

開設日：毎週 金
10:00～15:00
TEL：070-2175-6012
場 所：南魚沼市立ゆきぐに大和病院内

柏崎相談窓口

開設日：毎週 火・木
10:00～15:00
TEL：070-2171-6013
場 所：柏崎市役所内

◆平成30年度看護職員再就職支援セミナーを開始しました◆

<復職支援基礎コース>

看護の基礎的な知識や技術を講義や演習を通して学べるコース

- 5月30日（1日コース）：採血／吸引の技術トレーニング
- 6月21日・22日・7月9日（3日間コース）：
看護の動向／看護職のためのコミュニケーション技術／
メンタルヘルス／高齢者看護／フィジカルアセスメント／
訪問看護における看護職の役割／介護施設における看護職の役割

<復職体験コース>

病院・介護施設・訪問看護ステーション等で実際の看護業務を体験できるコース



♪受講後の感想♪

- ・プランクが長く久しぶりの技術で不安でしたが、分かりやすく教えていただき、また、他の受講生たちと情報を共有しながら楽しく受講できました。
- ・改めて看護の楽しさと難しさを感じました。もう一度看護の勉強をし直したいと改めて思いました。

看護職員再就職支援セミナーは12月まで開催しています。詳しくはお問合せください。

新潟県ナースセンター 再就職支援セミナー

検索

～ナースセンター 新企画～

看護職員再就職支援 “施設見学ツアー”を 実施しました!

未就業の看護職員が「また、働くかな～」と思った時に、「病院は働いたことはあるけど、施設ってどんな働き方ができるのかなあ」「やっぱり病院がいいけど、今の病院ってどんなかなあ」という思いが聞こえてきました。そこで、自分に見合った職場探しの一つとして、病院、介護施設等を組み合わせ、各施設を訪問する施設見学ツアーを計画し、再就職の職場を検討するにあたり、特徴や仕事内容について伺ってきました。



参加後の感想

見学して、具体的な質問にもすぐにお答えいただき、再就職への選択肢もよい方のイメージが変わったという感想をいただきました。初の試みに、ご協力いただきました病院・施設の皆様ありがとうございました。



お仕事探しをしている
看護職の皆さん!



上越市

【見学施設】くびきの里(ショートステイ・デイサービス)
スローライフばいにち(ショートステイ)
特別養護老人ホームあいれふ安塚

集合	9:50	上越市民プラザ1Fロビーに集合
移動	10:00	ジャンボタクシーで見学施設へ出発
見学	10:30~11:30	ショートステイ・デイサービスの見学
各自昼食	12:00~12:35	上越市民プラザに戻り各自昼食 12:35に再度集合
移動	12:45	ジャンボタクシーで見学施設へ出発
見学	13:00~15:35	ショートステイ、特養の見学
移動	15:40	ジャンボタクシーで市民プラザへ出発
解散	16:40	上越市民プラザに戻り解散

新潟市

【見学施設】東新潟病院
介護老人保健施設陽光園
特別養護老人ホーム江東園

集合	12:00	新潟県看護協会1Fロビーに集合
移動	12:20	ジャンボタクシーで見学施設へ出発
見学	13:00~15:55	病院、老健、特養の見学
移動	16:00	ジャンボタクシーで看護協会へ出発
解散	16:30	新潟県看護協会に戻り解散



初めて介護現場に伺うことができ、現場の雰囲気や患者、利用者の様子を知る事ができ、有意義な時間だった。今後、介護施設での就業も可能かなと思った。

急性期病院に勤めていたので療養型病院はイメージできなかったのですが、雰囲気も良くて介護士さんと一緒に働くイメージやスタッフさんの人柄が見られて良かったです。また、働きたいなあと思いが強くなりました。施設も視野に入れて考えていきたいと思います。すごくいい体験でした。ありがとうございました。

お知らせコーナー

災害支援メール運用テストの実施について

新潟県看護協会では、災害支援メールシステム運用規程に基づき会員施設等が災害に遭遇した場合に、支援要請に基づく支援を円滑に実施するため、登録を行った施設に対して被災状況および支援要請等の情報収集を行うこととしています。

このメールシステムの確実な運用を確保するため、登録施設に対して年2回の運用テストを行っています。平成30年度は、8月22日と平成31年2月頃を予定しています。災害時に支援を確実に実施するための重要なシステムですので、メールで返信をお願いします。

平成30年度 新潟県看護協会看護学会のご案内

開催日：平成30年11月30日（金）

会場：朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター） 新潟市中央区万代島6番1号

テーマ：「看護がつなぐ暮らしのかたち」

内容：看護フォーラム 「生きるを共に～これからの看護に求められるもの～」

講師 福井トシ子 日本看護協会 会長

座長 奥村麗子 新潟県看護協会 会長

シンポジウム「看護がつなぐ暮らしのかたち」

座長 宇田優子 新潟医療福祉大学 看護学部 教授

シンポジスト 中島朋子 東久留米白十字訪問看護ステーション在宅看護CNS

横井郁子 東邦大学 看護学部 教授

樋口昌美 こぶし訪問看護ステーション 管理者

参加申込：平成30年8月1日（水）～9月15日（土）

定員：1,000人

日本看護協会会員手帳2019年版（11月初旬発行）の予約を受け付けます。

ご希望の方は新潟県看護協会HPをご覧の上、お申し込みください。



新刊 図書案内

No.	題名	編著者	出版社
1	災害看護の本質	柳田邦男 酒井明子 [編著]	日本看護協会出版会
2	認知症の人の「痛み」をケアする	鈴木みずえ・高井ゆかり [編]	"
3	「看護必要度」評価者のための学習ノート [第4版]	筒井孝子 [著]	"
4	看護実践にいかす エンド・オブ・ライフケア 第2版	長江弘子 [編集]	"
5	看護職としての社会人基礎力の育て方 [第2版]	箕浦とき子・高橋恵 [編]	"
6	急性期病院で実現した身体抑制のない看護	小藤幹恵 [編]	"



協会事務局各部署の電話番号

総務課	電話 (025) 265-1225 / (025) 233-6550 FAX (025) 266-1199
ナースセンター課	電話 (025) 233-6011 FAX (025) 265-4188
訪問看護推進課	電話 (025) 265-4188 FAX (025) 233-7672
教育研修課	電話 (025) 265-1253 / (025) 265-1254 (025) 265-1256 / (025) 265-1343 (025) 265-1344 教育担当事務 FAX (025) 233-7672 / (025) 266-1199

編集後記

涼しい季節が待ち遠しい今日この頃、皆さんどのようにお過ごしでしょうか。

6月から新しいメンバーが3人加わりました。今年度は「地域包括ケア」を特集します。

koho@niigata-kango.com

新潟県看護協会会員数 平成30年8月6日現在

